

同窓会だより

発行

千葉県立船橋高等学校同窓会

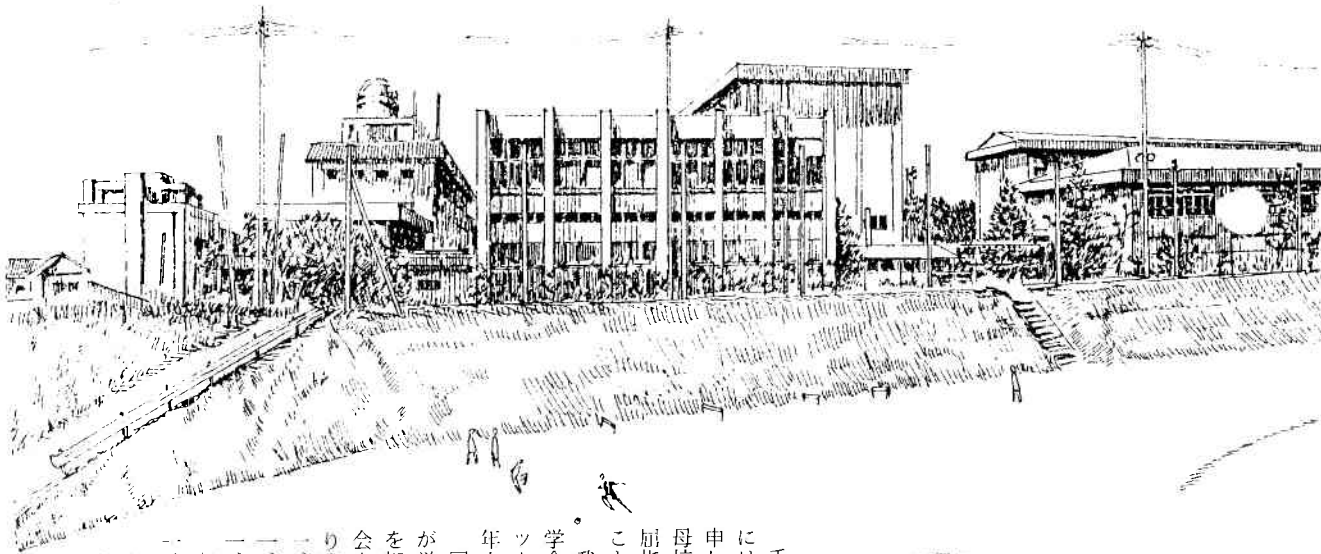
千葉県船橋市東船橋6-1-1

☎273 ☎0474-22-2188

印刷 総武印刷

千葉市新宿1-16-7

☎ 0472-42-3069



ご挨拶

同窓会会長



森田 廣

以上の事業計画に基づき近々実行委員会を発足させ具体的な準備に入るところであります。

我が同窓会と致しましては緑化整備計画に対する事業資金造成の一端を担うべく目標金額一千万円の募金を目差して広く会員皆様の御理解と御協力を賜り是非目標金額の募金を達成出来ます様、懇願致す次第でございます。

募金の要領につきましては趣意書等を作成して広く御願い申し上げますが、成るべく二口以上の御寄付を御願い申し上げることとなりましたが詳細については次回の理事会に於いて検討することとなっております。

七十周年も来年に迫って残された日時も段々と少なくなってきましたが記念事業の成功は一にかかって会員皆様方の御協力御支援に依るところ大であると信ずるものであります。

我々役員と致しましても七十周年と言う歴史の重みを踏まえ学校当局、PTA、同窓会等全校を挙げて記念事業達成の為に努力を盡してまいりたいと思っております。会員皆様方にも記念事業達成の為に全面的に御協力を賜ります様重ねてお願い申し上げます。御健康御活躍を心から御祈念申し上げます。

千葉県立船橋高等学校同窓会員の皆様には益々御健勝にて御活躍の事と御喜び申し上げます。

母校県立船橋高校に於かれても県下屈指の進学校として発展されておりますことは誠に御同慶に堪えません。

我が母校も大正九年船橋大神宮客殿を学舎として創立された船橋中学院をルーツとして、来る平成二年には創立七十周年を迎えんとしております。

同窓会だより一号にて少し述べましたが学校当局におきましては創立七十周年を祝して記念事業を実施すべく準備委員会を設置して種々計画を検討致してまいりました。記念事業の概要は

一、七十周年記念誌の発行
一、記念公演等の開催
一、校庭内外の施設、特に緑化整備の充

実
一、同窓会名簿の整備作製(本校同窓会理事河村信吾氏が代表者東日本出版に発注済)

守成

学校長

三橋 衛



ました。

本校は、大正九年設立の船橋
中院(私立)に始まるとされ
ていますが、公立学校への移管
は昭和十五年のことでありま
す。当初は船橋市立船橋中
学校として発足し、新入生は
百十三名(一学級)、二学年
以上は、前進である私立船
橋中学校的在校生百八名を
吸収し、全部で二百二十一
名という小さな学校であり
ました。その年の五月十五
日、現在地において開校式
典が挙行され、以来、この
日が本校の創立記念日とな
っているわけでありま

す。
山中肇先生は、それまで
県立銚子高等女学校の校長
でありましたが、この市立
船橋中学校開校のため、
この学校の上台を築くた
めに尽力され、その後、
千葉師範学校(現千葉大
学)女子部長に栄転された
方でありま

す。先生は開校当時を
偲んで次のように話してお
られました。
「当時、千葉市と東京の
間は、立派な中学校は一
校もなく、優秀な小学校
卒業生は千葉中や千葉
高女に入る、は皆東京の

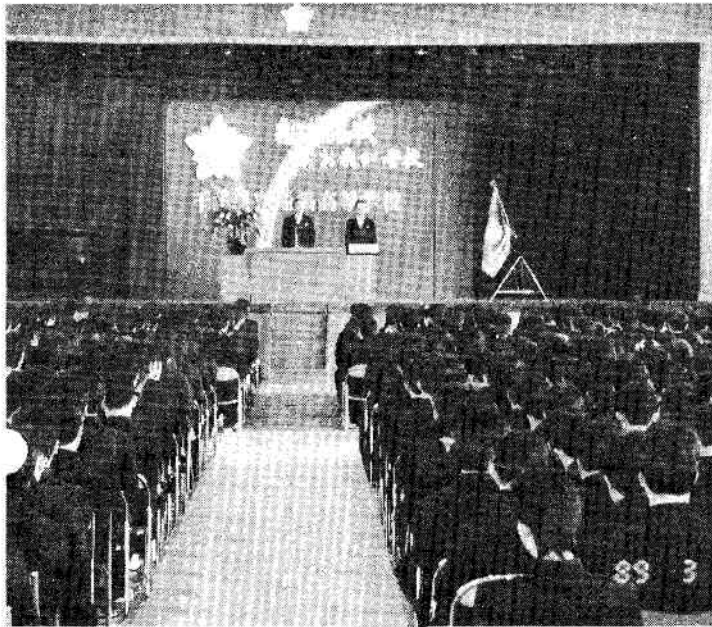
府立の中学に通学してい
ました。そこで、私は、
将来この学校を立派な
中学校につくり上げ、優
秀な子供を育てようと考
えまし

えまし
た。」また、「その頃、
神奈川県立湘南中
学校が新しい学校で、
学業に運動に立派な
成績をあげていた
ので、この学校を
目標にしました。」

このお話と関連して
思い出されるのが、
千葉健吉先生の言葉
であります。千葉健
吉先生は船橋人神宮
(意富比神社)の神官

でありましたが、育英
事業にも大変熱心で、
大正九年、本校の淵
源となる船橋中学院
を創めた人でありま
す。千葉先生は開校
の動機について、次
のように語っておら
れます。

「そもそも私が学校
を建てたのは大正九
年でしたが、その動
機は、当時この船橋
という大きな町に
私塾すらなくて、小
学校を卒業した者は
東京へ行くか、さ
まなければ千葉の
学校へ行くより他
はなかった。……こ
れ



29年3月 卒業式

は何とかして船橋に
学校を建て、わざわざ
遠い所へ行かなく
てもよいようにしな
ければならぬ」と考
えた。」(本校創立
五十周年記念誌より)
本校開基とも言うべ
きこのお二人の先生
に共通する考えは、
千葉や東京に負けな
い立派な学校を船橋
につくり、文武両道
に秀でた有能な人材
を育てたいというこ
とでありました。こ
の願望は本校の教育
目標の中に受け継が
れ、今日まで脈々と
生き続けているもの
であります。

本校生徒の歌う校歌
の中にも、「輝く歴史に
轟くその名」という
一節がありますが、
今日「船高」の名声
は高まり、千葉先生
や山中先生の願ひは
一応かなえられたも
のと考えられます。勿
論、今日の「船高」
あるは、これまでの
各時代を支えてきた
職員、生徒のたゆま
ぬ努力と保護者・同
窓の皆様の温かい協
力・援助の賜物であ
ります。

「守成の中に創業
あり」という言葉が
ありますが、現在の
船橋高校に身を置く
私共は、先輩の築き
上げた名声の上に徒
らあぐらかき、安逸
に過すことのないよ
う十分自戒すると
ともに、創草の志を
忘れず、これから
迎える創立七十周
年を一つの大事な節
目として、更に一層
の飛躍のために努
力しなければなら
ないと考えておら
れます。

昭和六十三年度 事業報告

事務局長 小石 税

昭和六十二年年度の総会は平岡氏より事務局を受け継ぎ、本校ゆかりの三橋校長を迎えて二年目になり、「県立船橋高等学校創立七〇周年記念事業」を計画する大切な総会でありました。又、三橋校長の教え子達も多数出席し、まれにみる活気ある総会ではなかったかと思えます。

特に、記念事業を推進するために同窓生の皆様にどのように理解し募金に協力していただくか、かなり突込んだ質疑がありました。母校に目を向けていただくために、新春名刺交換会の開催、仲間との情報交換や交流を深めるため会員名簿の作成等の議案が皆様の協力により承認いただきました。

この二本の柱をもとに六十二年度は事業を展開してまいりました。まず名簿作成は本校の卒業生である河村君（二十六卒）の経営する東日本出版㈱に委託し、

現在その作業に取りかかっております。

平成元年二月十一日に開催いたしました「新春名刺交換会・新春のつどい」におきましては、皆様への通知不徹底と昭和天皇の崩御とが重なりましたが、百二十名の出席があり、十分に目的を果し、楽しい会であったと思えます。ただ名称が名刺交換会であったため、女性の方が出席しにくいということがありました。今後は名称を更に検討し、

恩師の先生方にも出席をいただき、同窓生と恩師の再会の場として多くの皆様に出席していただけるような企画を立てて、早い内に連絡出来ればと考えております。

支部組織については、現在数回の地区連絡会を持ち平成元年六月に結成されました。又、市川地区が準備に取りかかっております。船橋地区も近々結成に全力を上げる予定であります。

その他の地区でもできるだけ早く取り組まれるようお願いいたします。

平成元年度の重大な活動は、七十周年記念事業の募金があります。これにつきましては先の理事会（五月二十五日）におきまして、卒業年度別にお願いくることが決定しました。

- ① 中学院及び私立・市立時代卒業生
 - ② 県立中学校卒業生
 - ③ 県立船橋高校第三回卒業生まで
 - ④ 第四回～第十回卒業生
 - ⑤ 第十一回～第二十回卒業生
- に区分し、各卒業年度ごとに幹事の皆様で連絡を取り合いご協力をお願い申し上げます。

最後に事務局として提案したいことは、総会の折いとも話題になつてゐることですが、同窓会維持会員を組織して協力していただくことを考えております。具体的には維持会員は年



会費をいただき、それを「同窓会だより」や支部組織を結成する為の費用にあてるという考えです。まずは常任理事を中心に維持会員を増やして行こうと思っております。理事会、総会においてこの案が受け入れられれば、一人でも多く御賛同下さいますようお願い致します。

同窓会の歴史

(1)

(五十周年
記念誌より)

— 記録風 —



萩原 忠

副会長

学校同窓会の沿革

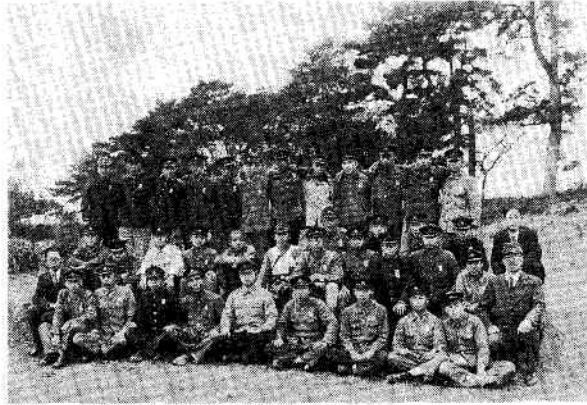
大正九年、千葉健吉理事長が船橋中学校を意富比神社(大神宮)客殿に開校し、大正十三年現在地に校舎を建築、昭和四年財団法人船橋中学校に改組、昭和十五年四月船橋市立中学校が創設され(買収による)、昭和十九年県立移管、学制改革により高等学校と改称され現在に至り、創設以来ここに五十年の歲月を重ねた。学校の内外にわたる発展は目ざましいものがあり、誠に喜ばしい。



県立船橋中学校門 S20

同窓会としては、昭和四年に私立船橋中学校として改組され、同窓会として、昭和四年に創立された。昭和十七年までは学校長が兼職していた。私立時代五弓安二郎校長、市立時代山中肇校長、県立時代神原克重校長、山、太

て昭和八年第一回卒業生を出した時に誕生しているが、中学院卒業生によって「意富比会」と名づけられた別の同窓会がある。昭和二十二年春、船橋市「玉川旅館」に発起人が集り、中学校卒業生による同窓会と中学院卒業生の「意富比会」を統合し、船橋中学校同窓会を成立させ、現会則の改正前の規則により発足した。それから二十数年になり、学校の発展とともに同窓会も会員一万名予算四百万の会に発展してきた。



S18 山名君子科練入隊に際して 武内茂夫氏提供

校長の四校長が会長の職にあった。昭和二十七年山口校長がオリンピック大会日本選手団顧問としてヘルシンキに参加した時期に、会長を会員中より推挙するように会則を改正した。歴代校長も県下指折りの大校長で、学校運営とともに同窓会の運営にも当り、会の基礎をつくり、現在のような県立高校として名実共に大高校、大同窓会として五十周年を迎え、下村、伊藤両校長の手腕により新校舎も出来、本日に至ったもので、この間PTA、同窓会の協力も大変なものであった。

(以下次号つづく)

山中・新妻先生囲む会

重ねて開かれる

石田 明也

(副会長・現船高教諭)



昨年稲田、伊藤、齊藤三先生が発起されて開かれたが、今年には卒業生七名が発起人(市立一回、県立三回、代表萩原忠氏)となり、去る六月十一日(日)午後一時より三田浜楽園を会場に催された。昨年は山中、新妻両先生をはじめ十四名の先生方がお集まりになられたが、本年一月、上笹、稲田先生が相次いで他界され、体調をくづされておいでの先生方もあって、六名(山中、鈴木、高山、田中、道本、近藤各先生)のご出席をいただいた。

山中先生には九十歳になられてますますお元気で、参会者の近況報告、思い出話を終始にこやかにお聞きになっておられたが、そのお姿には一回心を洗われる。であった。

参会の卒業生は四十名、森田同窓会長、三橋現校長もご出席下され、お互に旧交をあたためて文字通り時の経つのを忘れる、すばらしい会となった。

末筆ながら新妻先生はじめ健康を害されておいでの諸先生方のご本復、一日も早からんことを心からお祈り申し上げる次第である。

《支部情報》

第3回習志野支部

結成準備会開催！

平成元年六月十六日、千葉信金習志野支店会議室を借用して、支部結成準備会が開かれ、習志野支部会則の作成と、支部役員の選出が行われた。

この席で、支部長に二代川幹夫氏（現同窓会常任理事）が選出された。副支部長以下の役員の選考については支部長に一任された。

尚、習志野支部は十地区に区分され、それぞれに地区委員を置き、地区委員を核にして連絡会や、地区委員会が開かれるようになっていく。

その他、支部をどのように運営していくのか、支部会費との拘りについても、かなり突込んだ話し合いがなされ、支部に入会し易い条件であること、草の根的な息の長い地道な活動が続けることにより、会員の数も増してくるであろうという考えが大勢であった。

習志野支部としてどのような活動を行うのか期待したい。その

して、他支部の誕生に影響を与えることは必至と思われる。

【習志野支部役員】

- 支部長・三代川幹夫（昭24卒）
- 副支部長・塩田俊一（昭31卒）
- 地区委員
- 嶋山三郎（昭37卒）
- 相原賢司（昭30卒）
- 榎本信広（昭33卒）
- 津田沼 宮崎清輝（昭29卒）
- 東習志野 吉野義信（昭35卒）
- 屋敷 保津幸子（昭31卒）
- 大久保 横井宏遠（昭39卒）
- 会計 吉田美恵子（昭34卒）
- 山本文子（昭31卒）
- 市角照男（昭30卒）
- 中村嘉秀（昭32卒）
- 会計監査

「あごや」

三代川 幹夫



習志野支部組織の結成に当り一言申し上げる機会を頂き感謝申し上げます。

昨年十月の第一回準備会より三回目の六月十六日の会議により、皆様方のご推挙により支部長の重任をお引き受けすることになりました。微力ではありますが、その重大さを厳しく受け止め、同窓会員の相互理解と支部発展運営に力をいれていきたいと思ひます。なにしる初めての支部結成で、とまどいも感じられます。しかし、皆様方の御協力御支援で立派な支部を結成し、船高同窓会の先達となるよう一生懸命努力したいと思ひます。右にも片よらず、左にも行かず、中道よろしく皆様方の意見を良く聞き、本部同窓会とも連絡を取りながら一歩一歩進んで同窓会発展向上の為、頑張りたいと思ひます。重ね重ね習志野支部会員の御協力をお願い申し上げます。

「七十周年記念事業実行委員会」設立

七十周年記念事業を具体的に名簿についてはその作業に取組むようにして行おうか、実行委員会が設立された。（第一回実行委員会が七月八日にもたれた）

P.T.A側から増田会長・今橋副会長・小川常任理事、同窓会から森田会長・萩原副会長・斉藤副会長・小石専務理事、学校の役割を引き受けるようになった。募金の目標は一千万円であるが、校舎内の施設・設備等をみると色々不足しているものや貧弱なものが多い。できればこの度の募金活動で施設・設備の緑化推進、記念誌発行、同窓会名簿の発行が決定され、同窓会

《同期会情報》

海神会の歴史散策

海神「洒どころなかにし」によく集まる第十二回卒業の仲間たち。飲むだけではなく、時には知的行動をとっている話になり、佐倉の町の歴史散策となった。強い日射しの照りつけるなか、堀田屋敷、武家屋敷跡、歴史民俗博物館等を見学。鹿島川ほとりの川魚料理屋で腰を落していつもの飲み会にもどってしまったが、健康的な一日であった。



堀田屋敷跡にて、平成元年6月4日

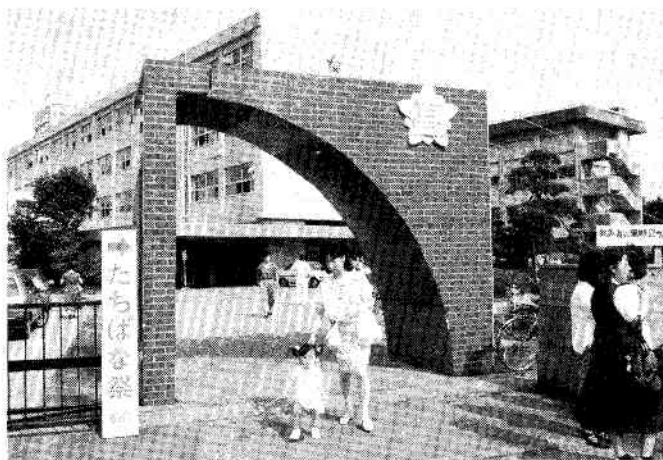
母校レポート

たちばな祭

文化祭に「たちばな祭」と名称がつけられたのはいつの頃からだろうか。古い同窓生には馴染みのない名称であるが、六月中に行われるためか、もの珍らしさもあり、他校からの訪問も多い。文化委員会の発行する六

千部の案内冊子も大方なくなっている。最近では校門の外に屋台が並び、何とも複雑な気持である。

たちばな祭の内容はと見ると、ひところのお化け屋敷や劇・映画は少なく、緑日・ゲームの類が多い。しかし三年ともなるとその飾りつけは流石と思わせるものがある。



今年の展示の中で注目すべきものは教員団体による「青橋展」であった。陶芸、木彫、写真、絵画などでなかでも、八十四歳になられた下村弘毅先生(第四代・第六代校長)が今回、油画四十号を特別出品され、その若さに驚嘆させられた。

平成元年度 学校整備計画

平成元年度に次のような学校整備事業を実施いたします。なかでも、創立七〇周年にむけて待望の水球兼用上屋付水泳プールは他に誇れるものです。同窓会員も是非ご一覽下さい。

- ① 水球兼用上屋付水泳プール 建築工事
- ② 武道場改修工事
- ③ コンピューター室冷暖房装置工事
- ④ 部室(10室) 建築工事

88年度進学情况

主な国公立大学の合格・進学数(平成元年度) 現・浪の合計

国公立大学	受験者数	合格者数(%)	進学数
北海道大(B)	23名	11名(48)	7名
東北大(B)	23	11(48)	9
筑波大(A・B)	22	6(27)	6
埼玉大(A)	43	16(37)	4
千葉大(B)	111	46(41)	41
東京大(B)	45	13(29)	13
東京学芸大(A)	24	7(29)	4
東京外語大(A)	6	5(83)	3
東京工業大(A)	56	22(39)	21
お茶の水大(B)	14	4(29)	4
都立大(B)	10	4(40)	3
一橋大(B)	29	7(24)	7
横浜国大(A・B)	41	15(34)	8
名古屋大(A)	43	13(30)	6
京都大(前・後)	56	12(21)	12
阪大(前・後)	26	5(19)	4

主な私立大学の合格・進学数(平成元年度) 現・浪の合計

私立大学	受験者数	合格者数(%)	進学数
青山学院大	62名	33名(53)	4
慶応大	295	68(23)	39
上智大	190	37(19)	15
中央大	74	28(38)	8
東京理科大	357	160(45)	27
明治大	167	57(34)	13
立教大	100	29(29)	7
早稲田大	745	135(18)	62

著書紹介

『飢は恋ならず』



吉野孝雄 一九四五年東京生まれ。早大文学部露文科卒業。千葉県立船橋高校教諭。『宮武外骨』(河出書房新社、一九八〇年)で第七回日本ノンフィクション賞を受賞。

著書に『過激にして愛嬌ありー「滑稽新聞」と宮武外骨』(筑摩書房)。編著に『予は危険な人物なりー宮武外骨』(宮武外骨・滑稽新六冊・築摩書房)がある。

飢は恋をなさず

著者 吉野孝雄

全裸さわる筆致で、時の大家を痛罵に斬りまくった『悪口の正太』こと奇想録刊。その37年間の短い生涯を、明治の東京の街の情景と文壇の多彩な人々の邂逅とをまじえて話した。はじめての本格的評伝。

四六四頁(五月10日刊) 1440円



思い出の記

船高と私のつきあい

旧職員
小滝 一夫

戦後まもない昭和二十三年四月の始め、二階建ての木造校舎を背にして校庭に集まった全校生徒に新任の挨拶をしました。広い校庭の中に一塊りの六三〇名の生徒。その向うには起伏のある畑が広がっていました。その畑の中の小路を京成花輪駅（現センター競馬場駅）から歩いて通勤したものでした。全校生徒は、新制高校一回生と、併設された中学の二・三年生でした。

それから、昭和五十九年三月までの退職まで、生物科の教師として三十六年間勤めさせてもらいました。いろいろなことがありました。

今の船高に昔を探る

この原稿依頼を受けたのを機に、本年六月中旬、学校敷地内をちよつとうろつかせてもらいました。

様変りした学校の中で、昔の姿を偲ばせてくれるものは、やはり旧正門（旧佐倉街道に面した）のあたりでした。正門を入らず右手に、人目につきにくい「中学碑」があります。また

ここはその昔、玉造りの場所でもあったといわれます。昭和十一年四月に、県立船橋中学校に入学した生徒（二百名）が旧制中学の最後の学年の消滅を惜んで建てたものです。碑文に「幾年をを此処に栄えし、学園の鐘は黙もり……、花輪辺は思い出尽きず、若き日は悔いなきけり」と刻まれています。

の式典が、校庭で夜を徹して行われました。偶然にも私の宿直の夜でした。時の流れを惜しむ生徒、教師の姿や声が今も心によみがえります。

記録によれば、碑の近くに月桂樹が植えられたとのこと。旧校舎取り壊して、旧正門脇に移され、月桂樹は今もなおその緑の葉を繁らせていました。

その正門近く、講堂兼体育館がありました。街道と講堂の間に植えられた椎の木（スタジイ）は、今、古木の貫録を見せていました。校外にエスケープする生徒たちの通路といえは懐かしい思い出をもつ人もいます。



千葉県都市緑化植物園みどりの相談員 相談所の前で

開設されたのが、昭和二十七年。他校に先がけて、また五十八年まで、二十二年間にも渡って続けられてきました。

その間に、参加総生徒数約九千七百名、教師数四五〇名の多きに達しました。浅間山の噴火、宿舎の状況変化、生徒数増加などどとりやめになったことはほとんどに残念なことでした。

船高卒業生全体の約70%が参加してきた一大学校行事であり、県内はもとより、他県にも例の少ないケースだったと思います。

夜の宿舎のにぎやかさ、キャンプファイヤーの興奮、寝ない者、廊下に立たされる者、裸のまま寒い屋外にほうり出される者などなど。

珍らしい林間学校実施校だった

「新鮮な山で、心に収獲を、自主的に楽しい思い出を、友だちづくり、グループ活動に励もう」。そんな目的で高峰高原林間学校が

母校に抛せる心をもう一度
高校生活は、三年区切り。トコロテンのように次から次へと多くの生徒たちが立ち去っていきました。また多くの教師も出たり入ったり。考えてみれば落着きのないところでもあり、また、新鮮な環境を提供してくれるところでもありました。

日まぐるしく変わる学校の中にも、いつも変わらず、夢を与え、相い出を創ってくれる環境がほしいと、退職近くになってやっと気づきました。

六〇周年行事にかけて、「ドラグリ作戦」を提唱。種子から



旧講堂跡より旧正門を眺む

常緑樹の苗を作り、緑の少ない校内の緑化を二、三十年かけてやろうという計画でした。南館の南側空地に苗畑をつくり、クラスの奉仕作業、緑化推進委員会の先生方の協力でどうにかシラカン、マテバシイの苗が育てられました。ところで、今回訪れた学校の中庭には寄贈の木々が生きのびてはいましたが、南側グラウンド周辺の木々は個体数ごく少く、心配でした。

変転する学校の中では、記念樹の移植・管理の方針や方法が変ります。そんな中で、恒久的な管理運営ができるよう、七十周年の時点ではぜひ専門的分野からの検討されたプランが創られることを望みます。同窓会の出番のところでしよう。

《職員移動》

植田明麿(教頭・県立市川南高校校長・昭和62年4月〜平成元年3月)
 田村 浩(社会科・市立千葉高校・昭和57年4月〜平成元年3月)
 米地俊夫(社会科・宮城県立栗原農業高校・昭和63年4月〜平成元年3月)
 井上久男(国語科・県立松戸矢切高校・昭和63年4月〜平成元年3月)
 江崎俊夫(数学科・情報処理教育センター・昭和59年4月〜平成元年3月)
 島 寛靖(数学科・県立国府台高校・昭和50年4月〜平成元年3月)
 越一太郎(理科・県立柏高校・昭和57年4月〜平成元年3月)
 丸石照機(理科・県立八千代高校・昭和50年4月〜平成元年3月)
 山本孝二(理科・県立国府台高校・昭和51年4月〜平成元年3月)
 大迫 太(理科・県立千葉東高校・昭和53年4月〜平成元年3月)
 青木 寛(保健・体育科・県教育委員会・昭和61年4月〜平成元年3月)

板垣信隆(保健・体育科・県立布佐高校・昭和58年4月〜平成元年3月)
 辻 富子(図書・退職・昭和27年4月〜平成元年3月)
 望月賢二(事務・県教育委員会・昭和61年4月〜平成元年3月)
 横尾 庫(用務・退職・昭和31年4月〜平成元年3月)
 加藤孝雄(定時制保健・体育・県立船橋豊富高校・昭和60年4月〜平成元年3月)
 金子さき(定時制用務・退職・昭和49年4月〜平成元年3月)

計 報

上笹 雪先生「数学」(昭和17年〜19年)・平成元年1月6日逝去・83才
 稲田正通先生「社会」(昭和18年〜39年)・平成元年1月19日逝去・82才
 橋本隆男先生「保健・体育」(昭和38年〜54年)・平成元年4月27日逝去・61才
 露崎節男先生「校長」(昭和47年〜53年)・平成元年1月27日逝去・70才



同窓会総会のご案内

とき・平成元年八月六日(日) 午前十時
 ところ・船橋高校セミナーハウス
 米年、七十周年を迎えるにあたり記念事業を計画しております。多数の方々の出席をいただきご協力・ご意見をいただきたいと思います。ご参加をお待ちしております。

会員名簿調査中

創立七十周年記念事業の一つとして同窓会名簿の作成がありますが、ただ今、調査を実施しております。
 一万九千名の会員のなかには、遠く海外や、国内各地で活躍されており、会員のみなさんの情報で今まで不明であった方々の居所が判明しております。ぜひ、情報をお寄せ下さい。

《情報連絡先》

☎二七三 船橋市東船橋六丁目一番一号
 千葉県立船橋高等学校同窓会
 同窓会名簿事務局
 ☎〇四七二・四四・六四六九
 《名簿予約注文受付中》
 頒価 四〇〇〇円(送料七〇〇円)

あとがき

第一号をどうやら発行することができました。創刊号に対しては励ましや喜びの感想をいただいた一方で、厳しいご批判もいただきました。大変参考になりました。同窓会の方向や活動を支えるのは同窓会員である